



JICA
だより



シエラレオネ
首藤あずささん(41)
鳥取県国際協力
推進員(鳥取市)

アフリカ西部、シエラレオネの首都フリータウンで今年2月まで11年間、暮らした。多くのアフリカ諸国同様、町はごみだらけである。友人の前でごみをかばが騒いだ。

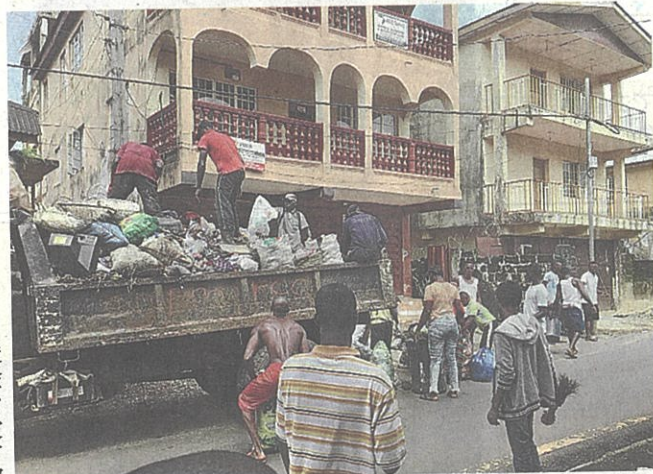
んに入れると舌打ちされ、勝手にかばんをこじ開けて、道路の溝に捨てられたこともある。道路のごみを目にするたびに日本人の血が騒いだ。

市役所に行くと、ガソリン代を出せば運転手付きで

自分が楽しめる活動を

清掃トラックを貸してくれるというので若者を集め、食事を支給し、月1回、地域の清掃活動を始めた。無料で家庭ごみも回収した

め、かなり好評だった。ほかに、「自分に何かできるのでは」という状況によく出くわした。しかし、汚職がはびこるこの国で



フリータウンの若者たちと取り組んだ
清掃活動

は、利益のないボランティアの存在を疑う風潮がある。町のサッカーチームを支援していた時も清掃活動をすると、自分の生活費から必要な経費を出したが、日本から多額の支援を受け取り、着服していると疑われ、ボイコットされてしまった。

清掃活動でも似たことがあった。議員になるための票集めだとか、掃除で大もうけしていると疑われたのだ。こうした状況下でも活

は、利益のないボランティアの存在を疑う風潮がある。町のサッカーチームを支援していた時も清掃活動をすると、自分の生活費から必要な経費を出したが、日本から多額の支援を受け取り、着服していると疑われ、ボイコットされてしまった。

現在、私は鳥取県国際交流財団(鳥取市)にある同県JICAデスクに勤めている。海外に向かう協力隊員が現地で人間関係に悩む時、私の経験を通して少しでも前向きに考えられるよう、サポートしていきたいと思っている。